

各部会報告資料

- ・子ども部会(P1)
- ・就労部会(P2)
- ・精神障がい者地域移行支援部会(P3)
- ・相談支援部会(P4-5)

平成30年11月30日

熊本市障がい者自立支援協議会

子ども部会 報告

1. 【活動実績報告】

開催月	活 動 内 容
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設プラグについて現況報告と意見集約（KP5000 山田氏より） ○ 全国児童発達支援協議会主催の研修会報告（おひさまクラブ園田氏） ○ その他（お知らせ）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ミニ研修」 熊本市の障がい者虐待防止の取り組みについて （障がい保健福祉課より） ○ その他（医療的ケアを必要とする子どもだが多動で母親が疲弊、レスパイトのための方法はないかとの市民病院連携室からの相談について意見交換）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい保健福祉課の業務分担について（小山氏より説明） ○ 「ミニ研修」 県立湧心館高校の特別支援教育と通級指導について （県立湧心館高校特別支援コーディネーター 徳永教諭）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後のスケジュールについての検討 ○ 「ミニ研修」 就学前の通級教室「あゆみの学級」について（教育委員会総合支援課より）

2. 【今後の活動予定】

- 子ども部会主催の研修会について、次年度中の開催を目指して検討していく。

開催月	内 容
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本会議報告 ○ 新障がい者プランについて
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども部会主催の研修会の検討 ○ 施設プラグの進捗状況について
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会に向けて（放課後等デイサービスの現状についての話し合い） ○ ミニ研修（未定） ○ 事例検討
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども部会主催の研修会の検討 ○ その他

就労部会 報告

今年度の取組について

【目標】 参加しやすくなじみやすい就労部会。参加者同士の連携をさらに深める

【部会全体の取組】

- ・ 就労フェアの開催：1月18日に開催決定（※別紙のチラシ参照）
- ・ ミニ研修の開催とグループワーク：各班と協力し、企業セミナー、他県の取り組み、関係機関の紹介、就労支援制度等について学ぶ
- ・ 本会議と就労部会をリンクさせるため、運営委員会や就労部会で本会議のことを報告する
- ・ 参加者の情報交換と情報共有

【各班の現在の具体的取組内容】

- ・ 当 事 者 対 話 班：就労フェアでの研修会の企画
- ・ B e 助 っ 人 班：就労部会ホームページ更新、就労フェアのアンケート作成と周知活動
- ・ 企 業 就 労 班：しごといく Vol.7 の製作、就労フェアで開催する企業セミナーとサポート企業団体の認定交付式・表彰式の準備
- ・ 研 修 班：毎月開催されるミニ研修の企画運営、就労フェアの実行員
- ・ 事業所ネットワーク班：防災マニュアルの作成、就労フェアでの合同面談会の準備
- ・ 工賃向上うるおい班：市役所での展示会の開催、就労フェアの表彰式で使用する胸章の作成

運営委員会での取組

- ・ 部会長、副部会長、各班のリーダー、サブリーダー、事務局で構成
- ・ 部会の活動内容を具体化し、方向性を決める
- ・ 部会の中で吸い上げた参加者の意見やリーダーの意向等を協議し（検討）審議（決定）する

精神障がい者地域移行支援部会 報告

【これまでの取り組み】

開催日	内容
8月21日	○ ピアサポート活用病院による報告 ①小柳病院（作業療法場面での活用から個別ピアサポートにつながったケース） ②桜ヶ丘病院（退院後の地域生活支援にピアサポートを活用したケース） ○ グループワーク
9月11日	○ 講話①「訪問介護事業所から見た地域包括ケアシステムの現状と課題」 田尻 亨 氏（熊本県ホームヘルパー協議会副会長） 講話②「精神科作業療法と地域移行支援活動」 山田 勝久 氏（熊本駅前看護リハビリテーション学院 専任教員） ○ 第2回熊本市障がい者自立支援協議会報告
10月9日	○ 退院支援ポスターおよび地域移行支援リーフレットに関するアンケート調査報告 ○ 地域包括ケアシステム状況整理票（市全体版）の報告 ○ グループワーク

◆ 全体研修の実施

退院前後における支援にピアサポート活用した2つの病院から、活用の経緯や活用内容、活用による対象者の変化等について報告を行った。また、それぞれの専門職種の立場から、精神障がい者への支援の考え方や方法、地域移行支援を行う中での役割等について学ぶ機会を作った。

◆ 退院支援ポスターおよび地域移行支援リーフレットに関するアンケート調査の実施

地域移行支援の普及啓発を目的に作成したポスターの掲示状況や掲示後の反応、リーフレットの活用状況について、部会参加の精神科病院（17病院）および障がい者相談支援センター（9事業所）に対し、アンケート調査を実施し、17機関（12病院・5事業所 回収率：65.4%）から回答を得た。その結果、病院では約9割が病棟等にポスターを掲示しており、うち約半数の病院でポスターを見た患者等から何らかの反応があった。また、リーフレットの活用は全体でも3割程であった。

◆ 区毎の地域移行支援への取組みと進捗報告

部会のグループワークにて、区毎でまとめた地域包括ケア状況整理票の確認と、ロードマップに基づいた地域移行支援の進捗状況の共有と意見交換を行った。また、区毎（中央区、東区、北区）でも地域移行支援の会議を実施した。

【今後の予定】

- ・熊本市障がい者相談支援事業所連絡協議会との合同研修
- ・ピアサポーターによる実践報告・意見交換
- ・県地域移行支援研修の実施
- ・区毎の地域移行支援への取組みと進捗報告（定期的に実施）
- ・今年度の振り返りと次年度計画の作成 など

相談支援部会 報告

□全体目標

・障がいを持つ方の支援を行う中で見えてくる生活ニーズを明らかにし、その中にある課題の集約や整理を行うと共に、改善策等を検討し、障がいを持つ方がより安心して地域で生活できる環境を整備していく。

・地域の障がいを持つ方を支援する相談支援専門員が抱える課題を集約・整理し、改善を行っていく。また、相談支援専門員のスキルアップと共にお互いに支えあえるフォローアップ体制を整えていく。

・平成30年度に行われた法改正に伴う運用について、相談支援の実情等を照らしながら障がい保健福祉課と協働しそれらの検討を行う。

□全体状況

【サービス提供事業所からのインフォメーション】

新規で開設した事業所や利用者を募集している事業所等からのインフォメーション依頼があった場合は1事業所2~3分程度で案内を頂いている。これにより、各事業所を担当者が各相談支援事業所に出向く必要が軽減され毎回数か所より依頼を頂いている。

【行政からの報告等】

自立支援協議会本会議内容、セルフプラン導入にあたっての意見聴取、特定事業所加算の取得促進について等々、案内やご相談を頂いた。

□各班における年間計画と進捗状況等

【事例検討班】

→1月に部会全体で事例検討を行うための準備を進めている。検討する事例についても綿密に検討を行い検討を進めている。

【ガイドライン班】

→「熊本市障害者（児）の障害福祉サービス等に関する支給基準を定める要綱」（通称：ガイドライン）についてアンケートを取った結果を、①相談員で返答できること②熊本市に確認が必要なこと③熊本市に提案すること、に分けて分類・整理。②について近いうちに市役所より説明を頂く予定。また、今年度より密な支援が必要な方には「モニタリング期間変更」が検討できるようになったが、これの運用等について検証を行うためにアンケートを実施する予定。

【新規事業所フォローアップ班】

→概ね事業開始1年半以内の相談支援事業所の方と、それにアドバイスを行えるベテラン相談支援専門員で編成。座談会形式を用いて互いの情報交換をすることで相談支援専門員の質の向上の底上げを行っている。

【拠点整備班】NEW!

→平成32年度までに整備予定の地域生活支援拠点整備について検討を進める。「緊急時の相談対応」に関するアンケートを実施。障害種別毎に緊急時の「現状」「課題」「対応策」につ

いてまとめながら今後の検討のあり方を模索している。

【法改正に伴う運用検討班】NEW！

→平成30年度の制度改正において、国の通知により示された「サービス提供事業所がサービス利用状況を相談支援専門員に定期的に報告する仕組みを構築することが望ましい。」について、意見交換を行い、運用方法を協議。報告の内容、方法、時期について、どのように運用していくのが望ましいのか、話し合いを重ね、報告様式を作成。しかし実際の運用にあたっては、様々な課題が残っていることから、熊本市（行政）で検討された結果、「サービス提供事業所から相談支援事業所への報告」について、今年度の運用は見送ることとなった。

今後は次の協議事項である「モニタリング標準期間」について9月に相談支援専門員に対しアンケートをとったので、これを集計し分析しながら対応を市役所と共に検討していきたい。